

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500121		
法人名	株式会社JAふるさと介護サービス		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	岩手県奥州市水沢区真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;ji_gyosyoCd=0391500121-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;ji_gyosyoCd=0391500121-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・CS研修を通して、職員全員で話し合い事業所のチームウエイを掲げ、毎月評価を行い改善しひとり一人が責任を持って業務にあたっています。  
 ・施設敷地内に自家菜園の畑があり、野菜作りや収穫を通して利用者様と共に季節の移り変わりを感じながら過ごしています。また、食卓に並んだ時には会話が弾み笑顔が見られます。  
 ・定期的に協力歯科医の訪問があり、歯科指導や個人診断・歯科スタッフによる口腔体操等多様な交流を行い、生き活きた表情が見られます。  
 ・社内のデイサービスセンター(金ケ崎町)でのボランティアによる舞踊・歌謡ショーにドライブを兼ねて出掛け、楽しんでいます。  
 ・近くにJAの産直があり、買い物や様々なイベントの開催等に足を運び、楽しみや気分転換になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・会社は、職員の研修に力を入れている。外部講師による年2回の「CS向上ホスピタリティ研修」で、接遇の基本、組織論・ビジネスマインドを学び、職員全員で話し合い事業所の「チームウエイ」を掲げ、毎月評価を行い、一人ひとりが業務の改善に取り組んでいる。  
 ・協力歯科医の訪問診療が定期的に行われ、歯科指導、個人診断を受けている。また、歯科スタッフ(5、6名)による口腔体操の指導や季節の歌・踊りを一緒に行ったり、アイデアたっぷりの工作の準備してきて一緒に作品を作ったり、利用者に喜ばれている。  
 ・同社の介護事業所のボランティアによる、舞踊・歌謡ショーにドライブを兼ねて出掛け、交流を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合いチームウエイを掲げて、毎月振り返り自己評価をして実践に繋げている。又、職員会議で唱和している。	基本理念は、職員が全員で話し合い作成している。職員会議で、唱和している。毎月振り返り自己評価をして実践に繋げている。小目標の一つに心身の健康を掲げ、職員同士の信頼関係の構築に良好に保ち、職員会議で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に作品を出品したり、協力歯科医のスタッフの方の歯科指導と共に歌を歌う等多様に交流をしている。会社が運営するグループホーム(金ケ崎)と共にマラソンを応援楽しんでいる。	地域の文化祭に作品を出品している。児童センターを訪問し、子どもたちと触れ合っている。今年は雨で参加出来なかったが、小学校の運動会の予行演習を見学している。また、JAのボランティアが訪問し、踊りを披露したり、手作りの紙芝居さんが来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くにJAの産直が出来た事により、地域の方々による施設見学者が増えた。見学時には施設設備・環境、認知症高齢者の理解と支援を呼び掛けている。今年度、地域の方々を対象に「認知症」についての理解や支援についての講演会を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・施設の状況報告を行い運営について助言を頂いている。各委員の立場から見た意見や要望など様々な情報を交換し合いサービスの向上に努めている。委員より「夜間の有るの際は連絡を下さい。駆けつけます。」と協力を頂いている。	入居者とその家族も任命されているが、会議には、家族のみ出席することが多い。地区の各団体からの委員が多いので、話題が地区に関する防災や行事に関する情報交換の場ともなっている。外部評価にも関心を示し、事業所の認知に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換のほか、入居希望及び相談者の情報交換を行っている。半年毎に介護相談員の方の訪問があり、利用者様と面談を行いその内容を基にサービスの改善に役立てている。	運営推進会議に委員として市担当課の職員が参加している。意見や入居希望及び相談者の情報交換を行っている。半年毎に市から派遣された介護相談員が利用者や面談し、その内容を基にサービスの改善に役立てている。市の窓口で顔をだし、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について話し合い、身体拘束を行わないケアを行っている。日中は施錠せずドアに鈴を取り付ける等に対応している。社内研修に参加し、自己の振り返りを行っている。	職員会議で身体拘束について話し合い、身体拘束を行わないケアを行っている。日中は施錠せずドアに鈴を取り付ける等に対応している。ことばや動作での拘束にあたらぬよう気を付けている。日中に入居者が戸外に出た時は、傍で見守りしながら同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	生活の中で虐待が行なわれていないか職員会議で話し合い、意識向上に努めている。利用者様ひとり一人に合った声掛けや介助が行われるように話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用されている方がおり、後見人の方と状態や様子について連絡を取りながら支援をしている。社内研修会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減のために、本人様・家族様と十分に話し合いを行っている。制度、料金改正の際には文章にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び、方法についてを玄関に掲示をしている。又、「ご意見箱」を設置している。毎月の家族様へのお便りに記入欄を設けてあり意見・要望を聞く機会としている。意見・要望は職員会議で話し合い、質の向上に努めている。面会時に気軽に対話出来るように挨拶など雰囲気気を付けている。	家族の面会簿は、入居者毎に作成している。家族からのお便りによる意見が出しやすいように、面会時に「ご意見箱」に自由に記入していただくよう検討中である。把握した意見・要望は、職員会議で話し合い、適時、運営に反映させるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で各利用者様の様子や状態の変化などについて話し合いを行っている。又、職員からの意見・提案を出し合い、業務改善に繋げている。	月1回の職員会議では、職員が交代で司会をし、各利用者の状態の変化などについて検討している。社長も参加し、職員から、ソファが裂けたという話が出た時は、社長が修理店を紹介する等、意見・提案を聞き、業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように、外部の研修会への参加や、資格取得について会社として助成制度を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	顧客満足度のマナー研修を年2回行いケアの質の向上を目標に実践している。職員の知識・技術向上のために会社として研修の年間計画を作成し実施している。外部研修後は職員会議で報告し情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加し情報交換をしている。又、認知症の研修会に参加して質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様等から様々な情報を得て、その状況を踏まえ、更に本人様の思い等を目線を合わせて傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際は家族様の不安や容望等を十分に聞く事で安心して頂くように努めている。又、面会時にも家族の気持ちを受け止め、耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の容望等を職員間で話し合い、状態観察を行い情報を共有している。ホームでの生活に馴染み安心して生活が出来るように寄り添い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家での生活の様に掃除や洗濯干し、洗濯たみ、畑の草取り、収穫など見守りをしながら一緒に行っている。又、子供の頃の遊びや話などで利用者間の交流を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで本人様の様子を伝えたり、ホーム内に様々な掲示物で近況を伝えている。又、家族様参加の行事を計画し本人様と家族の交流を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前にに住んでいた地区の婦人会の方や民生委員の方等が来所されている。その際にはゆっくり話が出来るように配慮している。	入居前に住んでいた地区の婦人会の方や民生委員の方等が来訪している。その際にはゆっくり話が出来るように配慮したりしている。ドライブで、利用者の自宅の近くを通ると「ここで降ろしてください」「皆と一緒にだからまた今度ね」というようなやり取りをすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が聞かれる。又、職員が間に入り、ひとり一人に応じた声掛けをし楽しく生活出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には見舞いに行き、家族様と連絡を取り合い今までの生活に近づけるように相談に応じている。又、他の施設に移られても今までの生活に近づけるように家族様や施設側と連絡・相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用前に本人様、家族様と面談させて頂き知り得た情報を元に利用者の希望や思いに添えるケアを提供できるよう職員間で情報を共有し活用している。利用者の担当職員を決める事でより親密なケアの提供に努めている。	利用前に本人・家族より得た情報を職員間で共有し、利用者の担当職員を決め、より親密なケアの提供に努めている。家族は、担当が決まっていることで、連絡しやすくなったと感じている。また、難聴の方には顔を向けて、手ぶりを混じえてゆっくり話しかける等、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前に本人様、家族様と面談させて頂き可能な限り情報収集している。又、日常生活の中で会話等のコミュニケーションを通じ情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、健康チェック表の記録、ミーティング等を通じ、個々の利用者の状態把握に努めている。その日の状態に応じて買い物や散歩等を選択して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様家族様からの希望や知り得た情報を元に職員会議で話し合い作成している。状態等に変化が見られた場合には、担当職員より情報を聞き、本人様、家族様の希望、職員会議での情報・意見を元に計画の作成、見直しを行っています。	本人、家族の希望や日常の関わりの中で知り得た情報を基に、職員会議で話し合い、それを基にケアマネジャーが計画を作成し、家族にも説明している。状況の変容に応じて、適宜計画を見直し、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送り、職員会議で情報を共有している。職員会議では日常生活での気付きを基に支援の見直し等を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の都合により通院介助が困難な場合は職員が同行介助している。又、JA理容室の方がボランティア訪問している。会社が運営するデイサービスセンターでの(金ヶ崎)歌謡。舞踊ショー等を楽しんでいる。職員参加のマラソン大会の応援に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報・各種情報、地区センターの広報より地域の行事、情報を収集し話題にしている。自作の紙芝居のボランティアの方の訪問やJA理容室の方が来所し利用者様の身だしなみを整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族様対応としているが困難な場合や緊急時には職員が対応している。主治医には必要に応じて看護師より施設での状況、状態の変化等の情報を提供している。	かかりつけ医は、入居後も継続している。定期受診は家族対応を原則としているが、家族の対応が困難な場合や緊急時には職員が対応している。受診時は、看護師から情報提供書により事業所での状況、状態の変化等お知らせし、医師から文書で指導・助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士が利用者様の情報を共有し、早期に体調の変化に気づき職場内の看護師に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「利用者様の生活の様子等の情報を医療機関に提供している。又、入院中は病院を訪問し経過の情報を得て連携を図り支援している。退院後も情報交換を密にして病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての指針を作成し、入居時には家族様に説明し同意を得ている。まだ、該当する利用者はいないが、主治医家族の協力体制のもと、十分に打ち合わせを行い支援に取り組むこととしている。	重度化や終末期に向けての指針を作成し、入居時に家族に説明し同意を得ている。これまで該当の方は、いない。職員に常勤の看護師がおり、主治医の指導を受け、家族と協力し支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し体調の急変や事故発生時に備えている。社内外研修で年1回救急救命の講習を受講し急変時に備えている。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回夜間・昼間を想定した火災避難訓練を実施している。又、停電想定訓練・無通告による通報訓練を行っている。非常用備品を備蓄している。近くの地区センターが地域全体の災害時の避難場所となっている。	年2回火災避難訓練(夜間想定も含む)を実施している。また、社長による、無通告での通報訓練を行っている。食材・水等非常用備品を備蓄しているほか、発電機も用意している。地域との協定はないが、推進委員である地区の消防団員から協力の申し出も頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を理解しその方に合った声掛けや対応をしている。OJTチェックリストを活用し日々の利用者に対する言葉掛けや対応を見直している。排泄衣類の着脱の際は特に他利用者の目に入らないように配慮している。	外部講師によるCS向上ホスピタリティ研修で、接遇の基本を学び、一人ひとりの人格を尊重し、その方に合った対応をしている。また、OJTチェックリストを活用して、利用者に対する言葉掛けや対応を見直している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、掃除・入浴・外出等本人が自己決定できるように支援している。利用者様の思いに耳を傾けその方に合わせた対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の希望でテレビ観賞・読書・自室で横になりたい等その方のペースを大切に、一人ひとりの状態や想いに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回JAの理容師が来所し利用者の要望を聞きながら理容している。起床時は自分で整容して頂くように声掛けや支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで収穫した野菜を使用したり、季節、行事に合わせた献立を取り入れている。食事の挨拶、食器拭きテーブル拭き等職員と一緒にしている。利用者様が自ら献立を考えて調理することもある。誕生日にはお祝いとして希望の献立を提供している。	献立は、当日の食事担当者が、利用者に希望を聞き、決めている。畑で収穫した野菜を使用したり、不足な物は利用者と一緒に買い出しに出かけている。「すいとん作りたい」と台所で、職員に指示しながら、自ら調理する方もいる。利用者の誕生日には、希望の献立と、手作りケーキでお祝っている。職員も一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、食事チェック表にて1日の水分摂取量、食事摂取量を把握している。個々に合った食事形態(きざみ、提供量)で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けを行い、口腔清掃、義歯の取り扱いを支援している。義歯の方の消毒は夜間に行っている。義歯、口腔内に異変がある場合は、家族様に相談し協力歯科医と連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表で、排泄パターンを把握し声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を支援している。自立の方、リハビリパンツや紙おむつ使用の方、それぞれが機能を低下しないよう、個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気を配り、体操等の運動をして支援している。食物繊維の多い食事やヨーグルト等を提供し便秘予防に努めている。排泄チェック表にて排便を把握し便秘の方は下剤でコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好みや気分に合わせて入浴剤を入れたり、温度調整を行っている。季節に合わせて菖蒲湯、ゆず湯等で楽しめるように支援している。一人ひとりの状態に合わせて安全に入浴できるように支援している。	入浴は、2日に1回程のペースで行っている。一人ひとりの好みや、気分に合わせて対応をしている。また、必要時はシャワー浴にしたり、一人ひとりの状態に合わせ、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう歌を歌ったり体操、散歩をする等日中活動を促している。心身の状態に合わせて寝具照、明等を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋を管理し常に確認が出来るようにしている。服薬の際は名前確認、手渡しをする、飲み込みの確認を行っている。体調に変化があった場合は記録をして家族に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たみ、掃除、食器拭き等一人ひとりに合った役割を持っていただき、満足感や楽しみを感じてもらえるように支援している。誕生日会、ドライブ等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望でホームの外を散歩したり、一緒に車で買い物に出かけている。戸外へ出かける行事を計画し外出の楽しみを味わっていただけるように支援している。家族様の協力で記念式典や法事に出かけている。	ホームから出て行く利用者にさりげなく寄り添い、散歩している。随時、食材の買い出しや日用品の買物に、一緒に車で出かけている。花見等の戸外行事を計画し、ドライブを楽しんでいる。また、家族の協力で記念式典や法事に出かける方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様よりお小遣いを預かっている方もいる。必要な物がある時には職員と一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している方には、必要に応じて職員が対応している。家族様や知人の方からの電話は取次をしている。毎年自筆の年賀状を家族様、知人の方に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは吹き抜けの造りになっていて時には窓を開け心地よい風や温もりを感じて頂いている。各行事の写真を貼り楽しみを感じて頂いている。	ホールには、テレビ、ソファ、食卓が配置され、それぞれのお気に入りの場所で寛いでいる。また、面会用の小卓・椅子も置かれている。食後は、畳敷きの小上がりで午睡をされている方もいる。ホールの壁面には、楽しそうな行事の写真を貼っている他は、過剰な飾りが無く、すっきりとした雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビリクライニング椅子があり、和室には寝座布団があり自由にくつろいで頂いている。ホールの座席に配慮し利用者様同士が会話出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望により写真、テレビ、馴染みの筆筒、椅子等を持ち込まれて心地よく過ごして頂けるようにしている。	ベッド(木製・介護用もあり)、クローゼット、洗面ユニット、寝具が備え付けである。居室は清潔に保たれ、利用者の希望により写真、テレビ、馴染みの筆筒、椅子等を持ち込まれて心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂場等は分かりやすいように表示をしている。安全に過ごして頂くようにクッション性のある床材を敷いている。		